中原　泉
一枚の写真
⑫

華西医科大学口腔医学院 Ⅱ

私は，2000年に成都を再訪した。空港からつづいたポプラ並木は，切り払われて高速道路に変貌していた。私，古屋英毅教授，小倉英夫教授は，華西医科大学創立90周年記念式典に招待された。その間に，私の名誉教授の称号授与式が組まれていた。長身のスマートな張肇達学長が，私を公用車の助手席に乗せて，自ら運転して式場へ案内した。欧米流の洗練された歓待ぶりに感じ入った。

15年前に姉妹校の調印をした曹澤毅学長は，その後，厚生副大臣に栄進して北京に赴任した。ところが天安門事件が勃発し，じきに失脚した。のちに，中日医学協会会長として来日し，久しぶりに再会を喜びあった。産婦人科医の彼は失脚中，北京郊外の病院の巡回手術をして糊口をしのいだ，という。

今回，口腔医学部長は15年余り勤めた王大章教授から，若い女性の周學東教授に代わっていた。中国では，学長や学部長になるのは共産党員に限られる。党員は現在8,260万人だから，13億人の僅か６％程という超々エリートである。くわえて，華西医科大学では代々，口腔医学部長は卒業成績トップが就く。周學東口腔医学部長は，三十歳の俊英で元紅衛兵と仄聞した。

式典の合間に，私は張学長から名誉教授の学位記を授与された。当時，中国にも大学統合の嵐が吹き荒れ，抵抗空しく華西医科大学は，四川大学に合併吸収されると決まっていた。辛うじて四川大学華西口腔医学院の学部名が認められ，伝統ある華西の名称が残された。私は，「貴方は，華西医科大学最後の名誉教授です」と口々に祝福された。

ところで，私が1985年に初めて成都を訪れた折，朝方，ホテル周辺を散歩した。華西の公用車が右折する所を左へ曲がると，大通りの向う正面に大きな横看板『打倒侵略帝国日本』が目に飛びこんできた。一瞬立ちすくんだが，公用車は私たちの目に触れないように回り道していたと知った。私は，そのときの王先生の配慮を今も忘れない。それから今日まで27年間，彼らと私たちの親交は途絶えることはない。

（写真　私の左隣は周學東口腔医学部長）